

平成30年度

福島県教育研究発表会（二次案内）

～明日の 福島 の 教育をつくる～

<期日等>

- ・期 日 平成30年11月29日（木） 9：40～16：00
- ・会 場 福島県教育センター（福島市瀬上町字五月田16）
- ・主 催 福島県教育センター
- ・後 援 福島県小学校長会 福島県中学校長会 福島県高等学校長協会

本発表会は、福島県内の公立学校教員の優れた研究成果を共有するとともに、発表を通して県内各園・各学校の実践の交流を図るものです。また、福島県教育センターの研究・研修業務における成果発表の場とし、本県学校教育の向上に資することを目的として開催するものです。

今年度も、研究・実践の発表と講演を行います。いずれの内容も、明日の授業や学級・学校経営につながるものです。

<日程>

9:10 9:40 10:15 11:00 11:15 12:00 13:00 13:45 14:05 15:45 16:00

| | | | | | | | | | |
|----|------|-------|----|-------|-------|-------|----|----|------|
| 受付 | 開会行事 | 研究発表1 | 移動 | 研究発表2 | 昼食・移動 | 研究発表3 | 移動 | 講演 | 閉会行事 |
|----|------|-------|----|-------|-------|-------|----|----|------|

- 3つの研究発表及び講演に参加できます。
- 参加申込みについては、当センターWebサイト上の「福島県教育研究発表会参加登録フォーム」に必要事項を記入・選択してお申込みください。
- 申込み期間は、10月1日（月）～11月9日（金）までとなります。
- 今年度、当センターは耐震工事中のため、駐車できる台数に限りがあります。車の乗り合わせ（原則各校1台）や公共交通機関の利用に御協力ください。
- 一般参加者の入口はセンター南側「研修者入口」、受付場所は1棟5階「講堂前ロビー」になります。
- 上履きを御持参ください。



ふくしまから
はじめよう。

<研究発表の詳細>

発表1 (10:15~11:00)

| 番号 | 研究・実践テーマ、発表者 | キーワード | 発表のここに注目! |
|-----|--|--|--|
| 1 1 | 思考力をはぐくむ授業の創造 ～論理的思考を促す指導過程 の工夫～ 大玉村立大玉中学校 教諭 岩野 貴夫 | 思考スキル 思考ツール 授業スタンダード 対話の充実 | 本校では、今後求められる力は、単なる知識や技能の量ではなく、それらを活用するための思考力であると捉え、3年間の研究に取り組んでいます。紹介するのは2年次の実践です。 「思考スキル」や「思考ツール」を効果的に活用することで思考の可視化を図るとともに、ふくしまの「授業スタンダード」の「追究・課題」の場面に焦点を当て、対話の充実を図り、思考力の育成に取り組みました。 平成29年度中学校教職員研究作品優秀賞 |
| 1 2 | よりよい人間関係を育む指導援助の在り方に関する研究(1年次) ～対話的な学びを充実させる 学級集団づくりを通して～ 福島県教育センター 教育相談チーム 指導主事 阿部 光 | よりよい人間関係づくり カウンセリング力・ガイダンス力 校内研修の充実 | 学級は学びの場であり、生活の場でもあります。児童が安心して過ごせる学級集団にするために、対話の視点を踏まえた「カウンセリング力・ガイダンス力」を高める校内研修を行いました。「よりよい集団づくりチェックシート」を作成し、自身の指導を振り返り、児童へのかかわりの手がかりとなるようにしました。 |
| 1 3 | 「話すこと」における言語運用能力の流暢さと正確さを向上させる指導 ～Time Decreasing Writingと ケーススタディを通して～ 福島県立福島東高等学校 教諭 クームズ 茂子 | 流暢さの育成 正確さの育成 | 社会の急速なグローバル化の進展に伴い、それに対応できる英語力の育成が求められています。「読む・聞く・話す・書く」の4技能の中でも、特に喫緊の課題である「話すこと」における言語運用能力の育成に焦点を当て、「英語を話すことを困難にしている様々な要因」を解消し、スピーキング能力を向上させる具体的な手立てを用いた実践を紹介します。 |
| 1 4 | 根拠に基づいて自己の意見を形成する力の育成 ～文学教材の的確な読み取りと 対話的な活動を通して～ 福島県立梁川高等学校 教諭 及川 俊哉 | 根拠と理由 バタフライ・マップ | 普段の授業の際、感想や意見を求めても、単語文で返ってくるなど、しっかりとした意見を言えない生徒が多いことに課題意識をもっていました。そのため、根拠に基づいた意見を形成する力を身に付けさせることができないかと考えました。そこで、「バタフライ・マップ」などのワークシートの工夫や、対話的な活動などを通して、意見を形成する力を育成することを目指しました。 |
| 1 5 | 学習内容の深い理解を促す中学校理科の授業 ～生徒が理解の深まりを 実感できる学習活動の工夫～ いわき市立小名浜第一中学校 福島県教育センター 長期研究員 志賀 匡行 | パフォーマンス課題の活用 「思考の補助線」のあるノートづくり 「ICE モデル」を活用した自己評価の工夫 | 「探究の過程」に沿った学習では、解決の見通しをもつことと結果や考察の振り返りを何度も繰り返すことが重要とされています。 本研究では、課題解決の過程を可視化し、整理する「思考の補助線」のあるノートづくりに取り組み、その効果について検証しました。また、学習内容と日常生活との関連性を意識するための実践例についても紹介します。 |

| | | | |
|----|---|---|--|
| 16 | <p>社会科における子どもの社会参加のための資質・能力の基礎を育む授業づくり ～「専門家コミュニティ」との関わりを生かした問題解決を通して～</p> <p>会津若松市立永和小学校 福島県教育センター 長期研究員 渡邊 匡彦</p> | <p>社会参加 問題解決</p> <p>カリキュラム・マネジメント</p> | <p>社会との関わりを意識した問題解決によって、主体的に社会の形成に参加しようとする態度の育成が社会科では求められています。</p> <p>本研究では、学習内容に関わる専門家や関係者、関係諸機関等と効果的な連携や協働を図り、社会参加のために必要と考える資質・能力の基礎を育む授業づくりについて提案します。</p> |
|----|---|---|--|

発表2 (11:15~12:00)

| 番号 | 研究・実践テーマ、発表者 | キーワード | 発表のここに注目! |
|----|--|---|---|
| 21 | <p>高等学校におけるアクティブ・ラーニングの視点を生かした学習指導の在り方(1年次) ～高等学校における学習指導実態調査と授業の提案～</p> <p>福島県教育センター 調査研究チーム 主任指導主事 酒井 康雄</p> | <p>小中高連携</p> <p>学習指導実態調査</p> <p>高等学校授業改善</p> | <p>福島県の県立高等学校の授業を行っている教員を対象に、アクティブ・ラーニングの視点を生かした授業改善に関する学習指導実態調査を行いました。結果から見えてきたことを踏まえ、新学習指導要領で求められている小・中学校の学習・指導方法の工夫を踏まえた高等学校における学習指導の在り方を提案します。</p> |
| 22 | <p>新学習指導要領の完全実施を見据えた外国語活動の取り組み</p> <p>国見町立国見小学校 教諭 阿部 淳子</p> | <p>教室英語と帯活動</p> <p>目的・場面・状況設定</p> <p>地域・他教科との関連</p> | <p>本校は今年度、高学年70時間、中学年35時間、低学年で8～10時間程度外国語活動を実施しています。児童が、教室英語や帯活動で十分に英語の音声に慣れ親しみ、工夫した設定の中で、他者意識をもちながら思考・判断して表現する姿、他教科との関連の中で、自分の思いや地域のことを話そうとする姿を目指して実践してきたことを紹介します。</p> |
| 23 | <p>主体的に学び、豊かに表現できる生徒の育成 ～共に学び、活用力を高める指導の工夫(2年次)～</p> <p>郡山市立郡山第一中学校 教諭 原 徳兆</p> | <p>活用力</p> <p>表現力</p> <p>教職員チーム</p> <p>新しい学び</p> | <p>全教師で取り組む授業改善について発表します。本校は大規模校であり、日頃の授業実践において教科部会が有効に機能しています。そんな中から生まれた授業における創意工夫は、実にバラエティーに富んだものでした。その一端を生徒の姿とともに紹介します。</p> <p>平成29年度郡山市公立学校教職員研究物展吾峰会賞</p> |
| 24 | <p>プログラミング的思考を育成する授業の在り方 ～言語化による再現性を重視したプログラミング体験を通して～</p> <p>平田村立蓬田小学校 福島県教育センター 長期研究員 加藤 政記</p> | <p>抽象化・分解・アルゴリズム的思考・評価・一般化</p> <p>アンプラグドプログラミング</p> <p>再現性を検討する対話的な学び</p> | <p>プログラミング的思考を働かせるために必要な力を、コンピューショナル・シンキングとの関連を踏まえ5つの力に整理し、各教科等での学びとの関係を明らかにしました。</p> <p>各教科等の学びを、プログラミングの視点でとらえ直すことで、知識・技能等を確実に習得させるとともに、普遍的に求められるとされるプログラミング的思考を育成する授業の在り方を提案します。</p> |

| | | | |
|----|--|--|---|
| 25 | 物理授業を通して主体的な学びを育む指導法の工夫 ～発散・収束・メタ認知の3過程を重視した「質問づくり」指導を通して～ 福島県立安積黎明高等学校 教諭 小野寺 充 | 発散・収束・メタ認知という3種類の思考過程 着眼点選びの4つの条件 協働学習とK P法の活用 | 高等学校物理の授業において、事象との出会いで感じた驚きを主体的な学びにつなげるためには、目の前の事象と既有的知識・経験とを結び付け、課題を見だし仮説を立てる力が必要となります。教師の発問の代わりに生徒自身が質問を考え、その質問を軸に授業を展開することで生徒の主体性を高め、考えを整理し表現する力の育成に効果的であることを検証しました。 |
| 26 | 問題解決の過程において、思考力を育む学習指導の在り方 ～数学科における根拠を見いだす活動の工夫を通して～ 須賀川市立長沼中学校 福島県教育センター 長期研究員 森 康隆 | 思考ツールの活用 課題解決の見通し 解答に至る方法・根拠・事実 | 全国学力・学習状況調査の結果を見ると、既習事項を活用したり、根拠を明らかにしながら説明したりすることに課題があります。本研究は、既習事項を想起し、課題解決の見通しをもたせる活動と解答に至る方法・根拠・事実を関連付けて表現させる活動の工夫を通して、数学的な思考力を育むことを目指した実践です。 |

発表3 (13:00～13:45)

| 番号 | 研究・実践テーマ、発表者 | キーワード | 発表のここに注目! |
|----|--|--|--|
| 31 | 「生きて働く読みの力」の育成を目指す文学的な文章の指導 ～「読み方」のリフレクションを取り入れた単元づくりを通して～ 二本松市立杉田小学校 福島県教育センター 長期研究員 菅野 智香子 | 他作品でも使える力 「読み方」の実感と自覚 リフレクション | 文学的な文章の指導では、読解に重点が置かれると、作品の内容理解だけで学習が完結してしまうことがあります。単元を通して、何が身に付き、どのように活用できるかを自覚させるためには、どうすればよいのでしょうか。そのために、「読み方」の有用性を実感させる習得と活用、「読み方」を自覚できるリフレクションを取り入れて単元を構想しました。子どもたちの読みが深まり、広がっていく姿を紹介します。 |
| 32 | よりよい人間関係を形成する力を高める研究 ～「伝える力」の向上を通して～ 福島県立新地高等学校 教諭 菊池 良平 | アサーション・トレーニング 体験的理解 | 今日、高等学校でも課題となっているいじめや不登校の要因について、「人間関係を形成する力」に着目し、その向上を図りました。LHRやSHRの時間を利用し、構成的グループエンカウンターや自分の意見を相手に適切に伝える技能の向上を図る演習を段階的に行いました。その結果、生徒のコミュニケーションの技能や人間関係に関わる意識・行動がどのように変化したかを面談や「hyper-QU」を使って検証を行いました。 |
| 33 | 自ら学び、主体的に考える情報モラル教育の在り方 ～総合的な学習の時間における探究的な学習を通して～ 福島県教育センター 情報教育チーム 指導主事 相楽 秀幸 | 「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の学習過程のスパイラル 小・中・高の連携 学校・保護者の連携 | 小・中学生のスマートフォン所持率の増加に伴い、子どもたちのネットトラブルが増え続ける中、情報モラル教育の質的な改善が求められています。総合的な学習の時間の探究課題に情報モラルを設定し、講義型の受け身的な学習から、主体的に学ぶ問題解決型学習への転換を図ります。研究協力校2校で実践する探究的な学習の成果を、総合的な学習の時間における情報モラルの授業モデルとして提案します。 |

| | | | |
|-----|--|---|---|
| 3 4 | <p>自ら考え正しく判断し行動する 子どもの育成 ～キャリア教育の視点を生かした 授業改善と主体性の育成～</p> <p>棚倉町立高野小学校 校長 高木 徹</p> | <p>基礎的・汎用的 能力を意識した 授業づくり</p> <p>自主性・主体性 の育成</p> <p>キャリア能力と 学力向上</p> | <p>本校では、「すべての教育活動の中でキャリア教育の視点を意識する」ことを目指しています。授業の中で高める能力や様々な教育活動の中での価値付けなどを通して、「基礎的・汎用的能力」を高め、その能力を自ら活用することを意識できるようにしています。6年間の実践を通して、キャリア能力と学力の関係も見えてきました。高野小学校で取り組む「キャリア教育」の実践をご紹介します。</p> |
| 3 5 | <p>9年間を見通した小中一貫教育 を活かして自ら伸びようとする児童 生徒の育成 ～「つなぐ」をキーワードにした、 考え、議論する道徳を通して～</p> <p>檜枝岐村立檜枝岐小・中学校 教諭 吉村 憲治</p> | <p>量的確保、質的 転換</p> <p>つなぐの場面</p> <p>小中一貫教育の よさを活かす</p> | <p>本校の児童生徒は素直で真面目な反面、教師の指示待ちが見られ、自分たちで創意工夫し、それぞれの思いや考えを実行しようという姿勢が弱く感じられます。小・中学校の教職員がその課題に真摯に向き合い、「特別の教科 道徳」を中心として、子どもたちに探求心をもって、まっすぐな心で、たくましく社会を生き抜く力を育てていくための実践です。</p> <p>平成29年度ふくしま道徳教育推進プラン道徳教育推進校</p> |
| 3 6 | <p>学習意欲を高める高等学校数学 科の授業 ～学習過程の振り返りと対話を 意識した授業を通して～</p> <p>福島県立葵高等学校 教諭 羽田 真幸</p> | <p>学習意欲</p> <p>「接続カード」 を活用した振り返り</p> <p>協働学習</p> | <p>学習意欲を高め、主体的に学ぶ生徒を育成する授業がこれまで以上に求められています。</p> <p>本研究では、学習意欲を高める上で、授業内容の振り返りは有効であると考え、展開とまとめのそれぞれの場面で、振り返る機会を設けた授業実践を紹介します。まとめの場面において「接続カード」を活用して授業内容の振り返りを行い、授業後の振り返りの有効性について検証しました。</p> |

講演 14:05~15:45

「深い学び」を生み出す授業づくりと学習評価

講師 早稲田大学教職大学院 教授

田中 博之（たなか ひろゆき）氏

《主な経歴》

- ・大阪教育大学教授
- ・ロンドン大学キングスカレッジ教育研究センター客員研究員
- ・文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家検討会議」委員

《主な著作》

- ・『若手教員の学級マネジメント力が伸びる！』金子書房、2018年（編著）
- ・『「考え、議論する」道徳ワークショップ』明治図書出版、2018年（共著）
- ・『「深い学び」実践の手引き』教育開発研究所、2017年（単著）
- ・『アクティブ・ラーニングの学習評価』学陽書房、2017年（単著）
- ・『小・中学校の家庭学習アイデアブック』明治図書出版、2017年（編著）、他多数

フィンランド・メソッドの教育応用研究、ドラマとサークルタイムの指導法の開発、アクティブ・ラーニングの授業開発、学級力向上プロジェクトと道徳ワークショップの実践研究、学力調査の開発研究等これからの学校に求められる新しい教育手法を作り出していく先進的な研究に従事されている田中先生をお招きしました。ぜひ、御聴講ください。

<参加申込み・交通案内等>

- | | | |
|--|---------------------------------|------------------------------------|
| ■参加費 | 無料 | 願います。 |
| ■申込期間 | 平成30年10月1日（月）～ 平成30年11月9日（金） | ※入力完了していない場合には自動返信されませんので、御注意ください。 |
| ■申込先 | 福島県教育センター | ■会場所在地及び会場までの交通案内 |
| ■申込方法 | | ◇会場所在地 |
| ◇教育センターWebサイトの「福島県教育研究発表会参加登録フォーム」に必要事項を記入・選択してお申込みください。 | | 〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16 |
| ※参加希望する発表の番号、講演の参加・不参加を忘れずに選択してください。 | | 電話番号 (024) 553-3141（代表） |
| ※昼食を販売いたします。昼食希望の有無を忘れずに選択してください。 | | F A X (024) 554-1588 |
| ※来所の方法を忘れずに選択してください。 | | ◇交通案内 |
| 車の乗り合わせ（原則各校1台）と公共交通機関の利用に御協力ください。 | | ・JR東日本…東福島駅下車徒歩15分 |
| ◇申込みが完了した場合には、入力フォームに記入したメールアドレスに、受付完了の自動返信メールが届きますので、確認をお願いします。 | | ・阿武隈急行…福島学院前駅下車徒歩5分 |
| | | ・福島交通バス |
| | | （福島駅東口バスターミナル2番より乗車） |
| | | ①宮代団地行き…県教育センター下車徒歩1分 |
| | | ②小坂行、③桑折行、④藤田行 |
| | | ⑤伊達・上ヶ戸経由掛田駅前行 |
| | | ⑥伊達経由保原行 |
| | | ⑦伊達経由湯野行 |
| | | ⑧伊達経由北福島医療センター行 |
| | | それぞれ 瀬上本町 下車 徒歩6分 |